

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

教科名	社会（歴史的分野）
発行者	1 1 6 日文

（社会：歴史） 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
1 1 6 日文	観点 1	・国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は 11 点あり、古代 2 点、中世 2 点、近世 4 点、近代 1 点、現代 2 点の内訳になっている。近世の出典数が多い。
	観点 2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、各章に「でかけよう！地域調べ」を設定し、各時代における事例をもとに、現地調査による調べ学習のポイントを示している。
	観点 3	・総ページ 328、歴史との対話 8、古代 50、中世 42、近世 52、近代 102、現代 38、その他 36
	観点 4	・写真 (105) 絵図(78)地図(35)図表・グラフ(37)文書資料(31)年表(38)人物(49)（「近代の日本」での掲載数）
	観点 5	・「中世に定められた主な『法』に着目し、古代と比較しながら、中世の特色を考えていきましょう。」という問いに対して、自分の考えを 3 つのステップでまとめる。ア. 「古代と中世の主な法にどのような特色があるのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。イ. 「なぜ、これらの法はつくられたのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。ウ. 中世の特色を、文章にまとめる。
2 2 5 自由社	観点 1	・国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は 8 点あり、古代 1 点、近世 1 点、近代 4 点、現代 2 点の内訳となっている。
	観点 2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「序章 歴史のとらえ方」に「第 3 節 地域の歴史を調べる」を設け、大阪府堺市を 4 つのグループに分かれて、調査を行ったまとめの文章が掲載されている。
	観点 3	・総ページ 308、歴史との対話 12、古代 50、中世 36、近世 44、近代 106、現代 34、その他 26
	観点 4	・（「近代の日本」での掲載数）写真(85)・絵図(78)・地図(29)・図表・グラフ(16)・文書資料(58)・年表(5)・人物(42)
	観点 5	・「中世とはどんな時代だったのだろうか。」という問いに対して、4 つの問題を解き、自分の考えを文章にまとめる。ア. 歴史用語を 3 文で説明する「歴史用語ミニ辞典」をつくる（院政、守護・地頭など）。イ. 時代比較の問題を行う（平氏政権と鎌倉幕府など）。ウ. 人物比較の問題を行う（北条時宗と足利義満の中国とのかかわり方の違い）。エ. 「ひとこと」作文を作る（「中世はひとことで言うと『〇〇』の時代だった。」この「〇〇」を埋めた上で 200 字以内の作文を作る）。

